

## 第2回 庄戸トンネル施工技術検討会

### 議事要旨

日 時：平成27年10月6日（火）15：00～17：30

場 所：株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング本社

出席者：今田徹委員長、岩井勝彦委員、亀岡美友委員、真下英人委員、  
八木弘委員、山田隆昭委員

議 題：

- ・ 検討条件の整理・設定
- ・ トンネル断面、施工方法の検討
- ・ 本線内工事用道路の検討
- ・ 地下水変動抑制・観測計画
- ・ 耐震検討

議事要旨： 資料の内容について説明を行い、下記の意見等があった。

《トンネル断面、施工方法の検討に対する意見》

- ・ 盛土部では、トンネルの安定性向上並びに掘削時の止水性向上のため、確実な施工が期待できる地上（坑外）からの地盤改良を行う必要がある。
- ・ 近接区間の支保工の検討では、隣接する後行トンネルの影響を適切に考慮しており、妥当である。
- ・ トンネル覆工構造の検討では、都市トンネルとしての検討がなされており、都市トンネルとしての安全性を確保している。
- ・ 大断面トンネルの施工方法等の細部については、施工者と調整してよりよいものとするのが望ましい。

《本線内工事用道路の検討に対する意見》

- ・ 本線内の工事用道路トンネルは大断面トンネル施工に先立つ調査坑として利用出来る工事となるため、得られた地質条件、掘削時の挙動（沈下、地下水影響等）を適切に評価し、後続となる大断面トンネルがより安全で合理的なものとなるよう引き続き検討していく必要がある。

《地下水変動抑制・観測計画に対する意見》

- ・ 基盤岩は透水性が低く、盛土部も地盤改良により必要な止水性を確保することから、トンネル掘削に伴う地下水影響は小さいと考えられるが、必要に応じて一時的な水位低下へ対応するため復水井を設置する。
- ・ 地下水位のモニタリングは、トンネル近傍だけでなくトンネルの影響がないと考えられる箇所でも実施しトンネルの影響がないか把握に努める。
- ・ トンネル建設による周辺地盤への影響把握は、適切な測点を設置し地表面の挙動を計測・評価することにより行う。家屋に対しては絶対沈下量よりも傾斜に着目した評価が大切である。

以上